

親切なクムジャさん

2005(平成17)年9月22日鑑賞(東宝試写室)

★★★★



監督＝パク・チャヌク／出演＝イ・ヨンエ／チェ・ミンシク／クオン・イェヨン／オ・ダルス／キム・シフ／イ・スンシン／キム・プソン／ラ・ミラン／ソ・ヨンジュ／キム・ジング／コ・スヒ／キム・ビョンオク／ナム・イル（東芝エンタテインメント配給／2005年韓国映画／112分）

……タイトルに欺されてはダメ。この映画はパク・チャヌク監督得意のコワイコワイ復讐劇で、「復讐3部作」のラストを飾るもの。その主人公は『宮廷女官 チャングムの誓い』で大フィーバー中のイ・ヨンエ。赤色のアイシャドーや七変化するファッションにも要注目だが、映画の後半からは背筋がゾクゾクするほど恐ろしくなってくることも確実……？ 『オールド・ボーイ』（03年）で主役をはったチェ・ミンシクは、この映画ではボロボロだが、それも名演技のうち……？ それにしてもなぜ韓国の、そしてパク・チャヌク監督の「復讐映画」はこんなに迫力があるの……？

第4章

いろいろな勉強になります

パク・チャヌク監督の「復讐3部作」

2004年のカンヌ国際映画祭で審査員特別大賞（グランプリ）を獲得したものすごい映画『オールド・ボーイ』（03年）（『シネマルーム6』52頁参照）に続くパク・チャヌク監督の最新作だが、これも刑務所から出てきた美貌の主人公イ・クムジャ（イ・ヨンエ）による「復讐」物語。したがって、私はまだ観ていない、このパク・チャヌク監督の『復讐者に憐れみを』（02年）を含めてこの3作を「復讐3部作」と呼ぶらしい。

そして、パンフレットにも「その最終章を飾るのが本作」と書いてあるが、パク・チャヌク監督は1963年生まれだから、まだ42歳。したがって、「復讐3部作」で完結とするのは、ちと早計すぎるのでは……？

イ・ヨンエの魅力いっぱい……？

『オールド・ボーイ』の主演は、韓国を代表する男優の1人チェ・ミンシクだったが、この『親切なクムジャさん』の主演は、パク・チャヌク監督の『JSA』(00年)で一躍スターとなり、NHK BS 2で放送中のテレビドラマ『宮廷女官 チャングムの誓い』で大人気を博しているイ・ヨンエ。私は時々観ているが、どうもテレビドラマは間延びしすぎるためか、集中できないうえ、あの韓国の宮廷服であるチマチョゴリに、あまり魅力を感じない……。

ヨン様ことペ・ヨンジュンが李王朝時代のプレイボーイに扮した『スキャンダル』(03年)でも、そこに登場した貞淑で美しい人妻チョン・ヒヨンにも、さらには妖艶なチョ夫人にもあまり魅力を感じなかつたくらい(『シネマルーム4』192頁参照)……。したがって、『宮廷女官 チャングムの誓い』におけるイ・ヨンエは全然熱心に観ていなかったが、この『親切なクムジャさん』におけるイ・ヨンエは全くの別人……？ 『JSA』の時もキリリと光るその美しさにビックリした(『シネマルーム1』62頁参照)が、それがこの映画では見事に復活……？

真っ赤なアイシャドーや因縁つき(?)のワンピースさらには囚人服を含めた七変化のファッションをスクリーンいっぱいに見せるイ・ヨンエの美しさだけでも、ただ圧倒されそう……？

ムシヨ帰りと白いトーフ……？

韓国映画を何十本も観て、その評論を書いていると、韓国についていろいろと物知りになるのは当然。そしてそれは、俳優や監督等の情報だけではなく、韓国の歴史や文化、習慣など幅広いものになってくる。

韓国旅行に数回行けば、韓国での挨拶の仕方や食事のマナーなどは当然身につくはずだが、映画を観ているとそういう「日常的」なことだけではなく、「非日常」のこともたくさん学ぶことができるから重宝……。

たとえばお葬式の習慣や作法は……？ そしてこの映画にも登場する、無事刑期を終えて、刑務所から出所してきたときの習慣は？ それは白いトーフを食べること。さて、その意味するものは……？

服役中のクムジャの熱心な信仰ぶり(?)に感激していた伝道師は、出所してきたクムジャを音楽隊の演奏で迎え、習慣どおり白いトーフをさし出したが……?

ペク先生の悪事とは……?

クムジャが「ウォンモ君誘拐事件」の犯人として逮捕されたのは20歳の時。映画の中には、18歳のときの可憐で可愛いクムジャが登場するが、1971年生まれだから、実年齢34歳のイ・ヨンエだが、そんな彼女が18歳の女学生を演じても何ら不思議でないところが不思議……? 女優はやはり化け物……?

高校生のクムジャが、教育実習に来ていて知り合ったペク先生(チェ・ミンシク)に電話で相談したのは、妊娠して困ったため……。もともと、そこらの詳しい事情は「ネタばれ」になるといけないので、これ以上はノーコメント……。

必要最低限の解説だけすれば、ウォンモ君を誘拐しこれを殺したのはペク先生なのだが、クムジャがその身代わり犯となって自首しなければクムジャの幼い娘を殺すと言われたというのがコトの真相。もともとクムジャを逮捕し、これを取り調べたチェ班長(ナム・イル)はクムジャの無罪を察していたようだが……?

ペク先生はクムジャが服役した後、クムジャの娘を養子斡旋所に委ねて養子に出したため、ジュニー(クォン・イエヨン)と名乗る娘はオーストラリアの元ヒッピーの養父母の下で生活を……。したがって出所したクムジャが最初にしたことは……?

刑務所内には、お友だち(?)がいっぱい

クムジャの罪は殺人罪。20歳で逮捕されて服役し、13年後の今出所できたのは、かなり模範囚だったものと推測できる。パク・チャヌク監督は、刑務所内での「親切的」クムジャさんの像を、一緒に服役していたたくさんのお友だち(?)とのエピソードを交えて、実にうまく表現している。ここで13年の間にクムジャが刑務所内でお友だちとなった面々を紹介しておこう。

①夫婦で銀行強盗を働いたウ・ソヨン(キム・ブソン)。彼女は刑務所内でクムジャに腎臓移植をしてもらったため、お礼に夫とともに特注の銃を製造してあげることに……。

②売春宿の主人を殺害して服役したキム・ヤンヒ（ソ・ヨンジュ）。彼女は、出所後、無認可の美容院を経営しており、出所したクムジャを迎え入れることに……。

③浮気した夫と相手の女を殺して食べたという噂の魔女（コ・スヒ）。彼女は、刑務所内で傍若無人に振る舞っていたが、ついにクムジャによって……？

④刑務所で「魔女」に夜通しうちわを扇ぐよう命じられたかわいそうなパク・イジョン（イ・スンシン）。彼女は、出所後にペク先生と結婚していたが……？

⑤姦通罪で服役し、「魔女」からみだらな行為を強要されたこれもかわいそうなオ・スヒ（ラ・ミラン）。彼女は、出所後は彫像アーティストになっているが……。

⑥元北朝鮮スパイの老女コ・ソンスク（キム・ジング）。親身に世話してくれたクムジャに対して彼女がプレゼントした改造銃の設計図つきの「法句経」が出所後大いに役立つことに……。

このように③の魔女を除いて（いやこの魔女も、うまくクムジャによって殺された（？）から、みんなと同じように「親切なクムジャさん」と考えていた様子……）お友だちはみんなクムジャを「親切なクムジャさん」と信頼していた。しかし、それもこれもすべて復讐のためのクムジャの計算の内だとしたら……？

スパイスとなる小道具はおいしいケーキ……？

この映画は復讐物語だから、ややもすれば暗いイメージになりがち（？）だが、そこでスパイスとなる小道具はおいしいケーキ。服役中にケーキ作りを教えたチャン氏（オ・ダルス）は粗末な材料で極上のケーキを作り上げたクムジャに惚れ込み、クムジャが出所するや、喜んで自分の店「ナルセ」で働いてもらうことに……。したがって、勤務先となったこのケーキ店とオーストラリアから連れ戻ったジェニーと一緒に暮らす自宅が、クムジャの復讐劇を完結させるためのアジトに……？

そんなケーキ作りの才能を持ったクムジャだから、節目ごとにクムジャが作るおいしいケーキが物語進行のスパイス役を……？ その1つは、復讐劇を見事に完了した後、家族たちが一同に「ナルセ」に集まっての祝賀会……？ そしてもう1つは、ラストのクムジャとジェニーとの「対話」シーンに登場する真っ白な大きなケーキ……。さてこの真っ白な大きなケーキは一体ナニ……？

「女の武器」も最大活用……？

復讐劇完結のためには何でもあり……？ 13年間も復讐、復讐と念じ続けてきたのだから、それくらいの覚悟は当たり前……？ 出所してきたクムジャはケーキ屋の「ナルセ」で働くことになったが、20歳の若い店員のクンシク（キム・シフ）はクムジャの美しい姿を見て、まさに一日惚れ……。わかる、わかるこのクンシクの気持……？ 33歳のクムジャは、20歳のクンシクに対してさまざまな人生模様を語るとともに、自宅にこのクンシクを連れていったため、クンシクは一発で陥落……。 「女の武器」も最大活用しなければ……？

アジトや武器以上に大切なのは、情報！

出所後のクムジャは13年間培った「親切なクムジャさん」の影響下にある刑務所内のたくさんのお友だちの応援によって、復讐のために必要なアジトや武器を整えることができた。しかし、それ以上に大切なものは、情報！

つまり、まずはペク先生は今どこに住んでおり、何をしているのかなどという基本情報だ。結論だけ言うと、彼は現在子供相手の英会話教室の講師をしている。そして話はちょっとややこしいが、彼はクムジャより一足早く刑務所を出所したパク・イジョンと結婚しているが、その結婚生活はかなり異様……。 とりわけ2人での食事やセックス模様は……？

ここらの描き方は、パク・チャヌク監督特有のユニークですごく面白いものだから、よく鑑賞してもらいたいもの……。そして、いろいろなストーリーがゴチャゴチャと絡み合っているので少しわかりにくいかもしれないが、その情報収集のサマと、ペク先生に近づくクムジャの決断のサマをしっかりと理解し、楽しんでいただきたいものだ。そして、この映画の教訓として「情報なければ行動なし」ということも肝に銘じてもらいたい。

映画後半の想像を絶する復讐劇！

さまざまな難関を乗り越えたうえで、やっとペク先生を捕え、雪深い山奥の廃校に彼を拉致してきたクムジャたち。すなわち、ここまでは娘のジェニーとペク

先生の妻イジョンも一緒だったが、ここでジェニーはイジョンに連れられてソウルに戻ることに……。この廃校の中で、椅子に縛りつけたペク先生を1人いたぶり続けるクムジャの姿には鬼気迫るものがある。それは、服役以来13年間ずっと「親切なクムジャさん」を演じ続けながら、練りに練った復讐劇の台本どおりの復讐を実現できたという満足感のため……？

ところが、首を絞め、痛めつけている時に突然鳴ったペク先生の携帯を見て明らかになった事実とは……？ それは何と、誘拐による被害者はウォンモ君だけではなかったということ。そこで、次にクムジャが取った行動は……？ そして、それを手助けしたのは何とあのチェ班長……。

「目には目を、歯には歯を」の是非は……？

クムジャが取った驚くべき行動とは、チェ班長の応援を得ての、誘拐被害者の家族たちの招集……。ペク先生の自宅を家宅捜索した（もちろん捜索令状なしで）結果、クムジャが発見したビデオテープには、ウォンモ君以外の誘拐被害にあった子供たちをペク先生が殺害していくナマナマしい映像が……。その事情を廃校の中に集めた家族たちに対して冷静に説明し、このビデオを上映していくのがクムジャ。そして、「上映会」終了後の彼女の提案はさらに驚くべきもの……？

「近代刑法」とは何かということ司法試験の勉強で学び、今は弁護士となっている私には到底容認できないクムジャの提案とは……？

これ以上のネタバレもヤボというもの……？ その驚愕の提案とそれを受けての家族たちの合議、そして家族たちが取った行動と結末は……？ それは是非この映画を観て、直接ビックリし、背筋を寒くしていただきたいものだ……。

イ・ヨンエの熱演に拍手！

イ・ヨンエはこの映画について、「チャングムファンがこの映画を観ると失望するかもしれません。肉体的にも精神的にも大変でしたが、緻密に復讐を計画するクムジャの心情が理解できました」と話している。たしかに、一途に前向きに生きていく『宮廷女官 チャングムの誓い』でのイ・ヨンエのイメージからは全く想像できないほどコワイのが、この映画でのイ・ヨンエ……？

美しい姿を見せるときもあるのだが、服役中のそれは自己を偽ったもの(?)だし、出所後のそれは冷酷な復讐鬼そのもの……? えらくゴツゴツした手製の銃はソヨンからプレゼントされた(?)ものだが、至近距離から撃たなければならないという制約つきのものだけに余計迫力がある……? さらに、女だてらに男たちに抵抗して闘う姿も、またやっと拉致したパク先生を椅子に縛りつけていたぶるサマも、なかなか堂に入ったもの……?

もっともそんなクムジャも、女であることを否定できるはずはない。したがって、オーストラリアへ飛び、愛する娘ジェニーと再会したときに見せる母親ぶりは絶品! そのジェニーが母親譲りの負けん気(?)で韓国を訪れ、母親の復讐劇をつぶさに見聞するサマも異様……。そして映画の最後に訪れるのは、なぜかこんな母親のイ・ヨンエと娘のジェニーが2人そろそろシーン。

姿カタチやファッションの多様さばかりではなく、女優としてのイ・ヨンエが見せるさまざまな表情や心情に大拍手!

ずっと注目したいパク・チャヌク監督とキム・ギドク監督

この『親切なクムジャさん』のパク・チャヌク監督と並んで私が韓国で最も注目している監督はキム・ギドク監督。『八月のクリスマス』(98年)や『四月の雪』(05年)のホ・ジノ監督など韓国には注目すべき監督がたくさんいるが、一作一作が何とも強烈なインパクトを与える監督の双璧がパク・チャヌク監督とキム・ギドク監督。これはあたかも新生中国映画のヌーベルバーグとして1980年代に突如彗星の如く登場した第5世代監督である、陳凱歌監督と張藝謀監督や、1950~60年代の松竹映画を背負うヌーベルバーグ監督として注目を集めた大島渚監督や近時の『HANA - BI』(98年)を引っさげてベネチア国際映画祭で金獅子賞を獲得した天才、北野武監督のようなもの……?

ちなみに『キネマ旬報』10月上旬特別号18頁によれば、キム・ギドク監督の最新作『空き家』は国際批評家連盟(FIPRESCI)の「2005年度最高の映画」に選ばれ、9月15日からはじまるサンセバスチャン国際映画祭のオープニングで授賞式が行われる予定とのこと。このキム・ギドク監督に負けず、パク・チャヌク監督の次回作にも大いに注目だ!

2005(平成17)年9月24日記